

聞いてみました！

繁殖が良い農場の頭の中 1

かやの

ベンチマークの活用

以前にやっていた、**検診農場の繁殖成績のまとめ**を6月から復活させました。若手の方が中心にまとめを毎月つくってくれています。自分の農場の繁殖成績が他と比べてどのへんにあるのか、検診担当者から聞いた農場も多いのではないのでしょうか。たんに数値を他と比較するだけではなく、なぜ良いのかを考えていきたいと思っています。さらに、**繁殖が良い農場のエッセンス**を共有できたらと考えました。今回はその1回目。

繁殖成績が良い農場の管理

6月の繁殖まとめで妊娠率が高かったある農場(妊娠率: 28%、発情発見率: 66%)に、**どういう意識で繁殖に向き合っているのか**教えてもらいました。その農場ではまず、繁殖成績を改善するために具体的な目標を設定しているという話を伺いました。以下はそのまとめです。

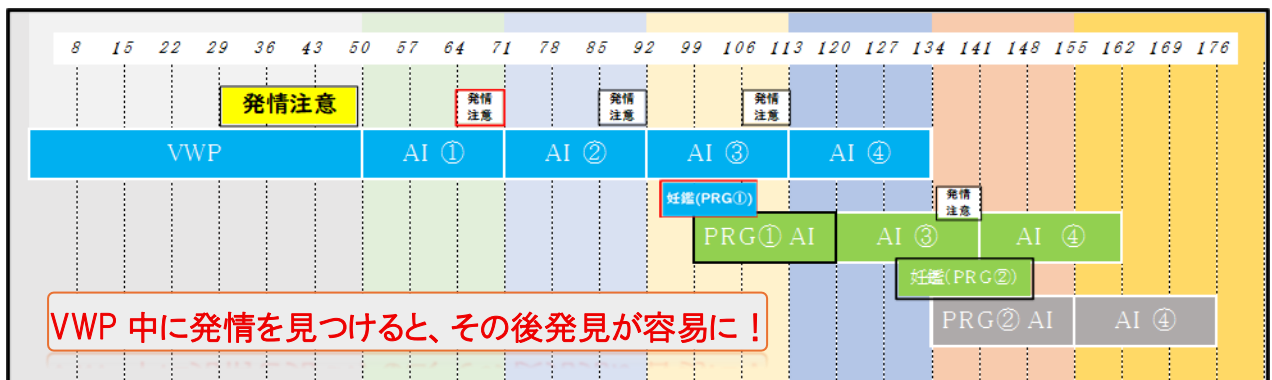
行動管理の設定 ～空胎日数を改善させるために、いつまでに何をするのか決める～

- (1) **現状把握** ← 農場の繁殖数値をまずは理解する
初回授精開始日、受胎までの授精回数、空胎日数、受胎率、発情発見率など
- (2) **数値設定** ← 現状を踏まえて、具体的な数値・ルールを決める
分娩間隔、平均空胎日数、VWP(自発的待機期間)、プログラム処置開始日数、追移植の検討など

- (3) **行動目標** ← 特に意識して発情を発見する

ここがもっとも大事！

① 再発情のチェック、② VWP 後期での発情発見、③ 搾乳日数130日までに3回授精など



上の図は、農家さんが実際につくってくれた頭の中のイメージ図です。100日こえたあたりからの再発の発見を特に重要視されています。緑は初回授精後の妊娠待ちの牛、灰色は2回目の妊娠待ちの牛のイメージです。

- (4) **行動管理** ← 繁殖検診までを期間として、発情発見する牛を特定する(BRED・OK/OPEN の牛)
 - ① Dairy Comp リスト(DIM が VWP 未満)での初回発情を把握すべき牛を確認し、発情チェック
 - ② Dairy Comp リスト(BRED の牛)での再発情時期の確認と発情チェック
 - ③ 人工授精カレンダーでの再発情時期の確認と発情チェック
 - ④ 繁殖検診前日までに“自然発情を発見する牛”か、もしくは“プログラム処置する牛”かを確認

まとめ

繁殖管理の正解は、農場や時期によっても違ってきます。しかし、繁殖が良いのにはそれなりの理由と行動があります。そうした実践をマネたり、意識や心掛けを知ること、気づくことがあるのではないのでしょうか。